

# ファミサポ&たすけあい 会員交流会 2019年上期報告

ファミサポ&たすけあい高島事務局

## (1)ファミサポ

1) 実績：4-8月（5ヶ月）

よろしく会員	まかせて会員	新入会	活動件数	時間
222人	168人	25人	57件	94時間

## 2) 特徴的な事例

- 産後のお手伝い：高島地区
  - ・ 出産前には、入院中の二人のお子さん送迎や赤ちゃんの沐浴などのお世話の依頼されていました。実際には、買い物や夕飯づくりのお手伝いを行っています。ママ友世代とお母さん世代の会員2人で協力しています。
- お子さん預かり：新旭地区
  - ・ 幼稚園入園前のお子さんがある方で、ご主人は単身赴任。お母さんもお仕事を持たれている。突然の休日出勤（長時間）が決まり、預けたいと依頼。続いて、送別会など夜間の集まりのために、ファミサポ利用。  
→これから、こういう方へのサポートが増えていくと思います。

## 3) これからの課題として

- 10月から「幼児教育・保育の無償化スタート」に対応した取り組み  
すでに内閣府から様々な形で広報されている「幼児教育・保育の無償化」が10月からスタートします。
  - ① 幼稚園、保育所、認定こども園など
    - ・ 3歳から5歳までの全ての子ども利用料が無料に、0歳から2歳までの子どもは「住民税非課税世帯」を対象に無料。
  - ② 幼稚園の預かり保育
    - ・ 市町村から「保育の必要性の認定」を受けた方が最大1.13万円までの範囲で預かり保育料が無料。
  - ③ 認可外保育施設等
    - ・ 市町村から「保育の必要性の認定」を受けた方（待機児童対象が要件）で、3歳から5歳までの子どもは月額3.7万円まで、0歳から2歳までの「住民税非課税世帯」では月額4.2万円までの利用料が無料。
  - ④ 就学前の障害児の発達支援
    - ・ 就学前の障害児の発達支援を利用する3歳から5歳までの利用料が無料。

\* 認可外保育施設等には「ファミリーサポートセンター事業」が含まれていません。現在、高島市では待機児童は20名とされており、この方々が制度を利用して、相談が増加する事が考えられます。また、この制度を活用して、働きに出ようとするお母さんも増えると思われれます。ファミサポ会員（まかせて会員）を増やしていくことが必要です。

## (2) たすけあい高島

### 1) 実績：4-8月（5ヶ月）

よろしく会員	まかせて会員	新入会	活動件数	時間
424人	261人	37人	895件	1837時間

### 2) 特徴的な取り組み事例

#### ① お出かけサポート

- ・ 4月から「付き添い」を主体とした「お出かけサポート」を始めました。
- ・ まかせて会員の中で、この活動に参加される方には登録いただくことになっており、現在8名程が登録されています。利用される方にも「利用承諾書」を提出いただいております、現在7名程となっています。
- ・ 主には、通院付き添い・買い物付き添い・習い事付き添いで、2時間から3時間が多くなっています。

□事例：マキノ地区・通院と買い物・習い事等のお出かけサポート

- ・ 高齢のお母さんと難病の娘さん2人暮らし。病気のために、公共交通機関の利用は出来ず、遠くの病院への通院もあり、タクシーでは経済的負担も大きいため、お出かけサポートを利用。月2回通院と買い物、月1回習い事と利用頻度は多くなっています。

#### ② 虹の会との提携活動

- ・ 昨年12月から、虹の会と提携し「虹カフェ」に集う方達に、たすけあい活動に参加してもらい、社会復帰につなげる事を目的に進めてきました。
- ・ 虹カフェ利用者と指導員がチームになり、「草引き・荷物運び出し・片付け」等、主に、体力を必要とする活動に参加いただき、これまで20回以上になりました。この取り組みも1つの力になり、現在登録されている方は、皆、次のステップ（バイト就労やB型への移行）へ向かっています。

#### ③ 朽木地区・天増川地区・椋川地区への活動実施

- ・ 昨年までも、朽木地区など会員の少ない地域からの活動依頼に対して答えられない状況がありました。今年に入って、朽木・椋川・天増川の3件にはまかせて会員さんのご協力で、何とか対応できる状況になりました。

□事例：天増川地区・片付け作業

- ・ 高齢のお父さん・障がいのある息子さん2人住まいのお宅の片付け作業を、現地会員2名、虹の会2名で行いました。不用品が大量に出て、環境センターまで運びこみました。一度では終わらず、継続して取り組む予定です。

□事例：椋川地区・掃除

- ・ 高齢の女性一人暮らし。ヘルパーの家事支援がなくなり、家の掃除などが出来なくなったため、娘さんからたすけあいに家事支援の依頼。ご近所も遠くなかなかお願いできる環境ではないため、隔週1回2時間で、掃除や草取り等を行っています。（安曇川からまかせて会員さんが行かれています）

### (3) たすけあい高島・あかり（総合事業）

#### 1) 実績：4-8月（5ヶ月）

8月現在	利用人数	回数(前年)	実施者	金額
総合事業A	19人	378回(239回)	21人	712,520
総合事業B	13人	175回(108回)	18人	210,000
合計	32人	553回(347回)	39人	922,520

- ・ 前年に比べて、総合事業 A/B とともに、利用者は前年同月と比べ 1.6 倍に増加。
- ・ 実施者もボランティア養成講座開催や会員の皆さんからの紹介等を通じ、増えていますが、まだまだ、不足している状況です。

#### 2) 最近の活動事例

- 朽木地区：80 歳男性・要支援 1・独居

- ・ 前立腺がんの手術の後、長時間立っていることが出来なくなり、家事支援。難聴・軽度認知もあり、トースターや扇風機のスイッチ切り忘れがみられた。車で安曇川まで買い物に行き事故も起こしている。難聴で電話に出られないことも多く、訪問して見守りが必要。週 1 回の掃除支援と話し相手の活動。

- 保坂地区：91 歳男性・要支援 1・独居

- ・ 交通事故の後遺症で、歩行が難しい状態。息子さんが心配されて家事支援を要望。本人は、『何でもできる』と言われ、食事は A コープから弁当を 1 日 2 食、買い物も A コープが配達してくれて問題なし。週 1 回掃除支援。様子見守りもしている。

- 高島地区：85 歳女性・要支援 1・独居

- ・ 老人性うつ症。掃除を理由に週 1 回の見守り。精神的に不安定な状況にあり、週 1 回予定しながら直前にキャンセルもある。何度か、事務局も伺い、お話をしてくる中で、精神的にやや持ち直し。現在デイサービスに週 1 回通われ、お友達も出来て安定されている。現在、サービス休止中。

- 安曇川地区：95 歳男性・要支援 1・独居

- ・ 一年近く、週 2 回支援。8 月、支援に行ったところ、腹痛・発熱の状態を発見。すぐにご家族に連絡し、対応されて入院。食中毒症状あり、詳細の検査の結果、他にも病気が見つかり治療開始。最終的に、要介護判定隣サービス終了。

#### 3) 今後について

- ひとりひとり、暮らしの状況は違います。介護保険・総合事業は制度上、出来ない事も多く、結果的に、総合事業とたすけあい活動を組み合わせて支援するケースが増えてきました。どこまで支援できるか、ご利用者様に寄り添って思いを受け止める事がますます大事になっています。

## (4) これからの課題として

### 1) 保育料無償化スタートに対して（ファミサポ）

- 働くお母さんをどう支援していくか、保育料無償化スタートによって、お子さんの預かり依頼が増えることが予想されます。これまでも、突発的な事態に十分お応えできる体制になく、ファミサポまかせて会員を増やしていくことが必要です。
- 今回「ファミサポ・スタートアップセミナー」を開催し、関心を持っていただける方を増やしていきます。（ファミサポ講座・必須項目受講の案内も行います）

### 2) たすけあいの活動の多様化への対応

- これまでも、虹の会との提携や『お出かけサポート』の取り組みなど、依頼の多様化に対応できるように取り組んできました。また、まかせて会員にも男性会員が増えており、これからもっと活躍の場を広げていくことが求められます。
- 日ごろの活動を通じて感じている事、こんな活動は出来ないのか等、会員の皆さんの率直なご意見をお出しいただき、一緒に考えていくことで、たすけあいの可能性を広げましょう。

### 3) 地域のつながりづくり

- 事務局では、マキノ地区（ぬくもりネットワーク・住民福祉協議会）や椋川地区（おっきん交流館でのサロン参加）、朽木懇談会（社協・住民福祉協議会・やまゆりなどとの懇談）などを通じ、たすけあい活動のご案内に伺いました。具体的な活動はまだこれからですが、高島市内全域に助け合いの輪を広げたいと考えています。
- 高島市全域で、たすけあい活動が取り組めるよう、会員を広げていくためにはどうすればよいか、ご意見をお聞かせください。

### ■NPO 元気な仲間として

- ◇ 現在、NPO 元気な仲間では、小規模多機能型事業所・通所介護事業所（デイサービス）・居宅介護支援・訪問介護支援事業等の「介護保険事業」や、学童保育トライアングル、結びと育ちの応援団（市委託事業）、働く女性の家（指定管理）も運営しています。多様な事業・活動の根底には「たすけあい」があります。
- ◇ 高齢者比率が県内第1位となった高島市では、これからは、担い手側とか受け手側という区別ではなく、『お互い様』の精神で、支え合う事が一層重要になってきます。たすけあい高島・ファミリーサポートセンターも、複合的な問題を抱えた方からの相談が増え、支え合いの手法ももっともっと広げていかなくてはいけないと感じています。

※たすけあい・ファミサポ会員の集える場所『サロン』づくり

※「はたらく」デイサービス構想

※多世代交流・一時避難場所にもなる『家・居場所』づくり